

韓国薬学研修報告 ～東国大学、国際交流について～

渡辺 稚佐登 薬学部5年 10A159

長谷川 博之 薬学部5年 09A103

2014年8月21日～24日の4日間の韓国薬学研修において東国大学との国際交流や大学病院の薬学部や調剤薬局の見学、韓方市場（韓国の生薬；韓方）や韓方博物館の見学をした。

東国大学は1906年に創立され、1946年に大学に昇格した仏教系の私立大学であり、ソウルキャンパス、慶州キャンパスを有し、2011年にはイルサンにイルサンバイオメディ融合キャンパスを開校した。薬学部はイルサンキャンパスの開校と同時期に設立された。東国大学は総合大学であり、法科、経営、仏教、工科、文科、教育学、生命科学、医学、韓方医学、薬学、観光学、芸術、映像メディアなど全21学部103学科と様々な分野の学部学科が存在する。なかでも芸術学部内の演劇映画学科では韓国芸能界を代表するタレント、アイドル、映画俳優を多く輩出している。また、著者や国会議員、知事、経営責任者など多数の著名人も卒業し、東国大学が創立されてから1世紀の間におよそ20万人の卒業生が輩出された。今年で開校108周年になり、韓国の中では伝統のある学校であると言われている。国際交流が盛んに行われており、48カ国と交流を行い268の大学と協定を結んでいる。

今回、私たちは研修2日目に東国大学ソウルキャンパスとイルサンキャンパスを訪問した。午前には訪問したソウルキャンパスはその名の通りソウルに位置し、キャンパスから15分程度歩くと観光地で有名な明洞や東大門に行くことができる。キャンパス内は比較的静かで緑が多く街中の雰囲気を感じさせない環境であった。仏教の大学ということもあり、キャンパスの中央には聖像（図1）、仏陀にゆかりのある動物で東国大学の象徴である像のモニュメントが存在する。シンボルが蓮の花(Lotus)であり、東國大學校の教訓として、攝心（清らかな精神を持つこと）、信寛（誠実で信頼のおける行動を取ること）、慈愛（博愛心を持って人を愛すること）、度世（苦痛から人々を助けること）の4つを掲げている。



図1 東国大学ソウルキャンパス仏陀聖像にて

仏陀の聖像の後ろに位置する明進館は東国大学の中で1番古い、石造りの建物で東国大学の歴史を感じさせる造りであった。（図2）今もなお、講義室として利用されている。



図2 東国大学 ソウルキャンパス明進館にて

ソウルキャンパス内を見学後、イルサンキャンパスを訪問した。

イルサンキャンパスには医学部、生命科学工学部、韓方医学部、薬学部の4つの学部があり、約2000人の生徒が在籍している。イルサンキャンパスの隣には2005

年に設立された東国大学病院がある。薬学部のキャンパスに到着後、薬学部の教員、学生たちが温かく迎え入れていただいた。私たちは1人ずつ韓国語で自己紹介をし、本学の李辰竜講師が本学薬学部の紹介を行った。その後、薬学部のキャンパスを案内していただいた。東国大学薬学部のキャンパスは7階建ての建物で、ガラス張りが多く広く感じた。(図3)



図3 東国大学 薬学部キャンパス

教室は1学年40人程度なので中学校の教室のように、1人ずつ席が離れ、教員と学生の距離が近く一人一人が授業に集中できるような雰囲気であった。机には座席表があり、1ヶ月ごとにくじ引きで席替えをすると聞いた。次に向かったのは研究室で、フロアごとに生物系研究室、化学系研究室に分けられていた。各研究室の実験室は広く器具も豊富に揃っていて、共焦点顕微鏡の設置された部屋は壁が黒い壁紙で覆われた暗室であった。教授の部屋は実験室とは別の階に設けられていた。他に予約制の自習室や図書館などがあり、一人一人勉強に励める環境が充実していた。昼食はキャンパス内で東国大学の学生と一緒にした。

次に東国大学病院と薬局を見学した後に、東国大学の学部長や教員、学生に夕食をご馳走して頂いた。なかなか英語をうまく話せない私たちに理解しやすいように簡単な言葉で話してくれたので、会話をすることができた。中には日本語を少し話せる学生もいて、英語や韓国語がわからないときには何度も助けていただくこともあった。元学部長は日本の大学に通っていたので、流暢な日本語を話されていた。とても気さくな方で楽しい話をたくさん聞かせていただいた。韓国の宴会の席でのマナーはたくさんあり、日本で当たり前に行っていたことが韓国ではよくない印象を与える点がいくつもあった。また、韓国の特有の制度として「兵役」の話聞いた。韓国人男性は19～29歳の間に2年間、兵役に就かなければ

ならない。たいていの人は大学を休学し軍隊に入り、その後復学すると聞いた。他に、「数え年」という韓国特有の文化があり、生まれた年を1歳として数えるので現役大学生の入学時の年齢が19歳となる。この2つのことから同じ学年であっても韓国の学生のほうが日本の学生よりも歳上の学生が多かった。その他に日本で有名なアーティストや俳優の話や、趣味の話などをたくさん話した。短い時間であったが交流を深め合えたと感じた。

日本へ帰国後、東国大学の学生たちが8月26日～29日の4日間、名古屋に来た。私たちは同月27日～28日の2日間、東国大学の学生たちと共に過ごした。27日午後から東国大学の学生たちが愛知学院大学楠元キャンパスを見学に来た。韓国で会ってから1週間も経っていないが再会できることを楽しみにしていたので、無事に日本へ着いた東国大学の学生の元気な姿を見ることができとても嬉しく思った。着いてすぐに、楠元キャンパスの案内をした。その後、東国大学の李助教の講演会を聞き、学校内で歓迎会を行った。東国大学の学生たちが日本語で自己紹介をしてくれた。

この日も、終わりの時間まで東国大学の学生たちと楽しく過ごした。(図4)



図4 愛知学院大学 楠元キャンパスにて

次の日、28日の午前は愛知学院大学名城公園キャンパスに行き、一緒に案内をしてもらった。名城公園キャンパスの最新設備に両国の学生全員が目を見張っていた。昼食を名城公園キャンパスの中でとった後、名古屋城を案内した。大天守閣の展望室や茶室へ行き、日本独特の雰囲気を楽しんでもらった。茶室では茶席の作法を学び、生菓子とお抹茶を頂いた。(図5)



図5 名古屋城 茶室にて

きたいと思いました。今回、貴重な機会を与えてくださった愛知学院大学薬学会、愛知学院大学国際交流委員会、東国大学薬学大学の皆様に厚く御礼申し上げます。

(長谷川博之)

栄へ移動し、オアシス 21 や日本のキャラクターショップなどの栄の街を案内した後、ビアガーデンで最後の打ち上げを行った。

感想

韓国研修を通して、東国大と愛知学院大との違いや文化について学べて良い経験になりました。病院見学や薬局見学、韓方などの薬学に関する勉強だけでなく、なにより、東国大の生徒や先生と交流を深められたことが一番素敵なことだと思いました。普段は日本語のみで、英語はもちろん、韓国語は話す機会がなかったので、この機会に言語についても学ぶことができました。私は、言葉が通じなくても仲良くなれたということに感動しましたが、やっぱり話せたほうが良いと痛感したので、せめて英語だけでももう少し話せるようになりたいと思いました。このような貴重な機会を与えてくださった愛知学院薬学会、愛知学院大学薬学部、東国大学薬学大学の皆様に深く感謝いたします。(渡辺稚佐登)

この韓国研修で韓国の文化や風潮など日本では感じる事ができない体験ができ、とても貴重な時間を過ごせたと思います。韓国の現場を自分の目で見ることで、文章や写真だけでは得られないことがたくさんあることに気づかされました。このことを身体で感じただけで、価値観が変わり、視野が広がり、今後に繋がる経験ができたと思います。特に、韓国の学生と交流が印象に残っています。別の国の学生とこれからも色々なことを見て、挑戦していき、もっと自分を成長させていきたいと思いました。今回の韓国研修で交流した学生や先生にまたどこかで繋がれることを楽しみにしています。次は日本の文化や風潮などを知って、日本の良いところをたくさん紹介できるようにしたいと思いました。お互いの国の良いところを知ることが高め合い。より良い関係になることを期待しています。海外の薬学生と交流できる機会はなかなか無いので、たくさんの学生に是非、参加して頂